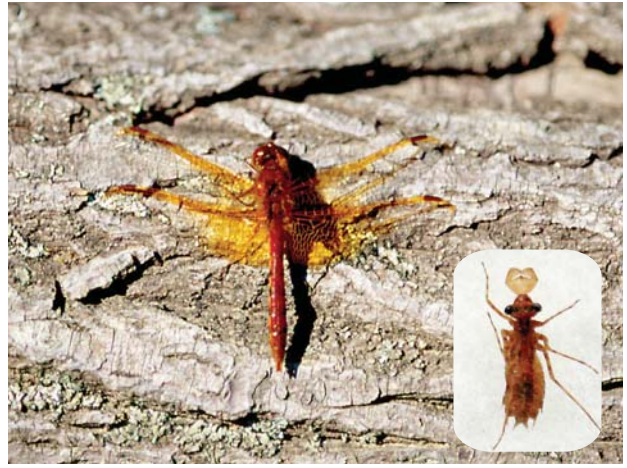


キトンボ

Sympetrum cleceolum

トンボ科



キトンボ。右下は幼虫（ヤゴ）

名前の由来

赤いトンボだがアキアカネなど程赤くないので、「黄トンボ」としたと考えられる。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：黄蜻蛉

形態的特徴

体長36～42mm。翅は根元から中央部にかけて橙色。オスメスともに成熟すると腹部背面が赤くなる。キトンボという名だが、翅と全身が赤っぽいトンボである。

類似種と見分け方：赤トンボ類全般。他の赤トンボ類と似ているが、翅の半分が赤く見えるのはこの種だけであり、翅の色をみることで区別できる。

生息環境・分布

平地から低山地の水草のある開けた池沼に生息している。
分布：中国東北部、朝鮮半島に分布。国内分布は、九州以北。北海道内では、全域で確認されているが、産地は限定

されている。
十勝地方では、平地から低山地の池沼に生息。帯広市、池田町、浦幌町、音更町、幕別町、新得町、豊頃町等で確認。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物を捕食する。成虫になるとカヤハエなどの小昆虫類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、鳥類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

卵で越冬し、産卵は8月上旬から10月下旬に見られる。連結して植生のある水域で、一度打水して腹端に水滴を蓄え、つづいて腹端を湿った泥や植物などに打ち付けて水滴と

もに卵を付着させるように行われる。
寿命：幼虫期間約1.5ヶ月、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

- 夏に羽化するが、羽化後に樹林へ移動するせいか夏に見かけることは少なく、9月下旬から10月に目にする事が多い。十勝地方平野部では各地で見られている。
- ヤゴは夏の渇水期に池や沼の水が涸れても、保水性の高

い土壌（泥炭土など）であれば土中に隠れて生存し、降雨で水が溜まると再び水中に出てくる。
■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するときには水草に登って羽化する。池や沼の周辺に樹木や草原があ

ることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982
「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985

「トンボのすべて」 井上清・谷幸三 トンボ出版 1999
「カラー日本のトンボ」 石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973
「名前といわれ 昆虫図鑑」 栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ